

むさしの TALK

高橋マリ子^{さん}
(モデル・女優)

個性的な店が集う吉祥寺は まち歩きが楽しいところ

透明感のある美貌で印象的なモデル・女優の高橋マリ子さん。
ホームタウンという吉祥寺で、どんな時間を過ごしているのでしょうか。



高橋マリ子(たかはしまりこ)
1984年サンフランシスコ生まれ。モデル、女優として活動するほか、太宰治著『浦島さん』の英訳版『Urashima San』(パブリック・ブレイン)で英訳を担当するなど、多彩に活躍中。趣味はカメラ、読書、映画鑑賞。

● PRESENT

今回取材した、高橋マリ子さん英訳のサイン入り書籍『Urashima San』を抽選で3名様にプレゼント！詳しくは本誌折り込みハガキをご覧ください。



3歳頃からずっと武蔵野市で暮らしています。都心に住みたいと思っただ時期も少しだけありましたが、今は都心と郊外のそれぞれの良さをバランスよく持っているこのまちが気に入っているのです、今のところ引越す予定はありません。

特に吉祥寺は、まち歩きがとても楽しいですね。カフェ一つとっても、北欧やフランス風だったり、ギャラリっぽい店やレトロ感たっぷりの重厚な店があったりと、個性的な場所がたくさんあるので飽きません。今回、撮影協力していただいた「カフェ・ドゥ・リエール」うさぎ館」さんもお気に入りの一軒。井の頭公園の景色を眺めながらゆっくりできるのも、特に木漏れ日がキレイな晴れた日に来ることが多いです。カフェだけでなく雑貨屋さんなどもテーマの異なる店が点在していて、店をのぞくだけでもいろいろな刺激を受けられて楽しいと思います。

本が好きで、古本屋さんにもよく行きます。ふらりと入った店先に、

1800年代に発行されたような本が無造作に置かれているのを見たりするとワクワクします。市立図書館もよく利用しますが、市内で借りたものであれば、どの図書館に返却しても良いというのは、とっても便利です。検索すれば「所蔵してない本はないんじゃないかしら」と思うくらい、たくさん蔵書があるのです。すごいと思います。しかも予約しておけば、準備しておいてくれます。すぐに借りられるので重宝しています。

そういえば武蔵野ブレイス内にあるカフェはパンケーキがおいしく、すね。たくさん本がある武蔵野ブレイスは、私にとって最強の場所かもしれません！

